

2018年6月1日 ブルーカーボン研究会第2回講演会
ブルーカーボンの社会実装に向けて

ブルーカーボン研究会

東京大学 大学院新領域創成科学研究科

佐々木 淳

ブルーカーボンの社会実装に向けた取り組みの整理

- ブルーカーボン研究会では、現時点での知見を最大限に活用し、科学的根拠に基づき我が国のブルーカーボン生態系によるCO₂吸収量を試算した。
- 吸収量は、吸収係数と活動面積の積で求められる。したがって、吸収係数と活動面積を増加させる技術開発が必要である。
- ブルーカーボンを我が国の地球温暖化対策計画における吸収源対策として定めるためには、必要となる手続きを順に進めていく必要がある。

1) 吸収係数の検証と特定に向けた取り組み

実証結果との突き合わせ
国内各地における吸収係数の特定
変動要因の整理

2) 活動量(活動面積)のモニタリングに向けた取り組み

測定手法の改良
モニタリング体制の構築

3) 吸収量の増加に向けた取り組み

吸収係数の向上技術
活動面積の増加技術

4) 行政手続きの推進に向けた取り組み

求められる科学的水準等の把握・対応

連携者・協力者との取り組み内容

1) 吸収係数特定のための国内各地における実証実験

2) 活動量のモニタリング

- 測定手法の改良, モニタリング体制構築
 - 地域の教育・研究機関とも連携?

3) 活動量増加技術

- 生態系管理「保全, 再生, (創造)」に関わる技術・情報の提供
- 社会経済的インセンティブの付与技術
 - オフセット・クレジット(自らの排出量を他の場所の削減量で相殺)
- 顕彰
- 生態系, 環境等への影響に配慮も必要

4) 行政手続き推進

- 定義, 目標値, 関連施策組み入れ, 立案